

## 第三支部研修「知っておきたい洛北の名所 曼殊院 圓光寺 詩仙堂」

—2024年12月6日（金）終了報告

第三支部研修担当

表題の「知っておきたい洛北の名所」ウォーキング研修が12月6日（金）に開催され、参加者22名（正会員14名と非会員8名）と委員3名が、京都出身の広石万佐子講師（正会員・第三支部）による、地元出身者ならではの興味深いコメントや豊富な知識を惜しみなくご提供下さった見事なガイディングの下、まさに今が盛りの紅葉を愛しつつ洛北の名所三寺（曼殊院、圓光寺、詩仙堂）を訪問いたしました。



まずは朝、叡山電車出町柳駅に集合、4駅先の修学院駅まで電車移動。乗車時間7分間の短い車中でもイヤホンガイドを利用して広石講師からのエリア説明があり、ウォーキングが始まる前から学びは始まりました。修学院駅に到着してからは、JGAの旗を掲げた広石講師を先頭に、紅葉の並木が美しい鷲森神社の参道を通り抜けてまずは曼殊院門跡へ。桂離宮を創始された、八条宮智仁親王の第二皇子良尚法親王が入寺され造営されたお寺として、「小さな桂離宮」の異名を持つ曼殊院で、狩野永徳や探幽や岸駒らの襖絵のみならず数多くの絵画や陶器、茶器などが室内のあちらこちらに飾られており、皇室との繋がり、深さ、寺としての格式の高さ、歴史の長さに圧倒されるほどでした。また、従来からあり国の名勝指定も受けている枯山水の書院庭園に加え、2022年に宸殿の150年ぶりの再興にあわせて新しく作られた枯山水庭園「盲亀浮木之庭（もうきふぼくのにな）」についても、広石講師から詳細な説明があり、参加者がみな熱心に記録していました。



次には曼殊院から約1kmの距離にある、昨今インスタ映えで有名な「圓光寺」へ約15分かけて徒歩移動。今回の三寺中、この圓光寺だけが紅葉シーズンは予約制で、かつ通訳案内士がお客様と同行した場合でも拝観料減免が無く、人気の高さがしのばれました。境内にも他二寺に比べるとより多くの拝観者が訪れていました。その為、紅葉で知られるメインの庭園での説明を避ける目的で、広石講師は敢えて今の時期には足を止める人の少ない同寺の桜の庭で説明をされました（3枚目の写真はその時の風景です）。



ここでは、同寺について学んだのはもちろん、お客様をご案内する際にも他の拝観者の方達への配慮を忘れてはいけない、というガイドとしての基本的な姿勢についても学ぶことができました。紅葉で知られる「十牛之庭」はやはり他のお客様のご迷惑にならないように各人で個々に拝観した後、広石講師のご案内で、裏山にある東照宮や家康公のお墓まで上り、山の高みから京都の街を眺望しました。途中竹林もあり、圓光寺ではモダンな枯山水庭園と、紅葉の見事な池泉回遊式庭園、竹林、山の上からの京の景色と、一つのお寺で様々な美を味わうことができました。

3つめで最後の訪問先は圓光寺から歩いて僅か5分ほどの詩仙堂。鹿おどし発祥の地としても有名な詩仙堂は、江戸時代初期、文人・石川丈山が晩年を過ごした山荘跡だったお寺で、現在は曹洞宗の寺院となっています。丈山の趣味・嗜好が建物にも庭園にも色濃く反映されており、室内にはたくさんの書画が飾られていました。「お客様をご案内して来た場合、もし質問されたらどう答えよう」と考えるガイドの習性から、多くの参加者が一生懸命に目立つ作品について説明を読んだり講師に質問したり、熱心に学んでいました。建物内の見学後には靴を履いて庭園の散策へ。起伏に富み、様々な表情を見せてくれる庭園を思い思いに楽しんでから、詩仙堂から歩いてすぐの神社入口で全員集合。最後に質疑応答と、講師から一乗寺付近でおススメのランチ場所4店の情報をお教え頂き、充実のウォーキング研修を終了しました。

12月6日という日程で、計画当初は「紅葉の盛りが過ぎてからの研修になるかな」と思っていたところ、実際には一番見事な洛北の紅葉を楽しみながら多くの学びを得られた、とてもお得感満載なウォーキング研修となりました。

第三支部研修担当